

安全作業手順書 【[雪氷]巡回作業】



セーフティーバイブル

見積もり基準をした危険性の評価			
重大性(B)	○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)
可能性(A)			
○ ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○○ (極めて小さい)	○△ (かなり小さい)	○× (中程度)
△ たまに起こる (1年に1回程度)	△○ (かなり小さい)	△△ (中程度)	△× (かなり大きい)
× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	×○ (中程度)	×△ (かなり大きい)	×× (極めて重大)

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし (様子を見る)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路(豊田IC～春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC～飛島北IC,有松IC～上社JCT)
機器工具 ・車両	温度計、塩分濃度計	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、安全くつ 保護メガネ、ゴム手袋、軍手

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント			リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ)			リスクの再見積り		
			(～なので～になる)			(A)	(B)	リスク	(私達はどうする)			(A)	(B)	リスク
準備工	作業確認 作業の打合せ(KY)を行なう 作業員の役割(運転手、助手)を決める 巡回コース、時間、計測場所を確認する 交通規制状況を確認する しらすんだーの動作確認を行う 出発前に車両の点検を行う	作業員全員で 免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 雪氷本部の指示に従い 必ず当日の規制簿を使用して 朝礼時に作業員全員で毎日動作確認をする 車両回送手順書に則り	手順を間違えて思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する 乗車時に必ず免許区分明示車両ステッカーを確認する	○	○	1				
			免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3		○	△	2				
			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			電池切れて緊急時、逃げるのが遅れる	△	×	4	毎日動作確認をし、電池が減ったら交換する	○	○	1				
			車両回送手順書に則る											
本作業	出発	基地等、敷地内から車道へと進入する	周囲の安全を補助員と共にしっかり確認して	確認不足により一般車両及び人と接触する	△	×	4	余裕を持って慎重に車道へ流出する	○	△	2			
	回送	25.車両回送手順書に則る												
	巡回作業	巡回を行う	①本部の指示に従い ②巡回時確認事項を確認して	/	/	/	/	/	/	/	/			
	測定作業	濃度等、路面状況確認の測定を行う	周囲の安全を確認しながら	測定中、走行車両と接触してしまう	△	×	4	測定の助手側は監視に努め、状況を確認しながら測定する	○	△	2			
	作業途中	Uターン及び回送を行う	必ず決められたルートに従い	/	/	/	/	/	/	/	/			
	回送	Uターン、回送及び帰着の連絡を行う	指示に従い	路面凍結により一般車がスリップして事故を起こす	△	×	4	一般道の情報は入りづらいので、最徐行に努める	○	△	2			
	後片付け	給油、洗車を行う	車両状態を確認して	洗車時、ホースが破裂して被災する	○	×	3	洗車前に必ず装置等の点検を行ってから洗車する	○	△	2			
駐車	駐車する	バックによる駐車の際は、必ず補助員のバック誘導に従い	バック誘導員を配置せず、後方確認が十分でまず 他車両・設備・人等に接触する	×	△	4	必ずバック誘導員を配置し、後方及び 周囲の確認を行いながら駐車する	○	△	2				
特記事項	1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。												